

ウルルンド ソンニンボン クムジョンサン  
韓国鬱陵島の最高峰・聖人峰と釜山の金井山(1)  
(2015年8月29～9月3日)

関根 茂子

ツツジとオオバヤマレンゲを堪能した太白山登山から3か月後、S姉のお誘いで再び韓国の山旅へ出かける。今回の参加者は、毎回参加のTさん、S姉のソウル北漢山山行で韓国山歩き初体験以来、韓国の山にはまっていたUさん(彼は2年間ハングル会話を学び、今や自前で韓国の山旅を楽しんでいる)、S姉、相変わらず文盲状態の私という4人だ。

鬱陵島といっても、私にはラジオの気象通報でよく聞いた地名というぐらいの知識しかない。この島は海底火山の活動によってできた島で、東京の八丈島と同じぐらいの面積(72km<sup>2</sup>)で、浦項から船で3時間余だ。最大の付属島は90kmに位置する独島で、日韓の領土問題になっている竹島である。北の東海墨湖港からも船便が就航しているが、時間的に速く島に行かれる釜山→浦項→鬱陵島の経路で行くことになった。

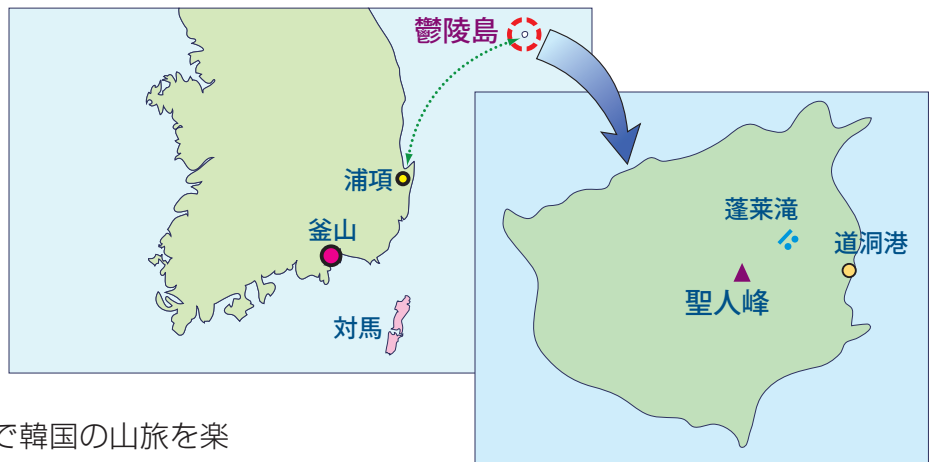
なお、S姉は8年前にも鬱陵島に渡り、最高峰の聖人峰に沢登りで登頂したとのことだ。

◆8月29日 成田発 12:45(大韓航空KE716)  
→釜山金浦 14:55着、地下鉄で老圃バスセンター→浦項泊

釜山の金海空港で共同山行費=1人20万₩(ウォン)を集める。両替レートは1万円が91,100₩で去年よりは少しだけました。

まずは無人運転の空港線で金浦から3つ目の沙上へ(13,000₩)出る。ここから西面で2号線に乗り換え老圃にあるバスターミナルへ向かう。

移動に便利のように、交通カード(デポジット2,000₩とチャージ1万₩)を買う。自動販売機に指示通りに操作、4人分のお金を入れたのに出てきたカードは2枚だけ! 文句を言おうにも言葉は不自由の上、無人駅なのだ。再度、2枚分を買わ



ざるをえなかった。

地下鉄に乗り、ノボから17:10発のバスで浦項に18:40着いた。ターミナル近くのモーテル「夢」に泊まる(3人部屋10万₩、シングル5.5万₩)。夕食は宿の近くでラーメン@4,000₩、冷麺@6,000₩の好きなほうを食す)平均71歳の御一行さま、異国の山旅の初日だ。

◆8月30日 浦項(高速船)→鬱陵島(道洞港)→民宿へ

宿の朝食(トースト・卵)の後、7:25にタクシーで港へ行く(6,100₩)。乗車10分で到着。早かったので、2階席の切符@64,500₩を65歳以上の敬老割引で買えた。それでも1人51,900₩、バスや鉄道と比べると高い。10:30出航、波穏やかに130キロ東へ、道洞港に14時頃着いた。熱心な客引きの民宿の小母さんについていって、まああの宿のオンドル1部屋に4人2泊で、10万₩で決めた。「割高? とも感じるが〜、今は観光地だから…」とS姉の言。

午後は浜辺の散策、私がひとところスケッチに邁進していると、S姉とUさんは運動不足と対岸の岩壁沿いの遊歩道を歩きたいと別行動になる。

S姉は「それにしても港の変わりようには驚いた。漁業が衰退して…というニュースは聞いていたが、棧橋は一新され、広く大きな建物となり、浜辺のイカ干場だった所は、観光バスの駐車場にな

り、陸揚げされた新鮮なイカを売っていた小母さんたちが、かろうじて片隅に陣取っていた。観光客のためには仕方ないか…。あれから8年もたてば～「ひなびた漁村風景も変わり、民宿・ペンション・ホテルが増え、土産物店や食堂なども垢抜けした店が多く、カラオケやサウナなど、びっくりすることばかりだ」と感慨深げだった。



蓬莱滝は原始林の間に落ちる3段の滝。上段は高さ25m。

夕食は大皿いっぱいのか、ヒラメ、サザエ、ホヤの刺身盛り合わせ、飲める3人にビール各1本、飲めない私は白いご飯で刺身をUさん持参の日本のわさびと醤油でおいしくいただく。というのも、Uさんは智異山登山後、三陟で楽しみにしていた日本海産の刺身を食べたところ、「韓国のわさびと醤油でイマイチだった」というのだ。また、この地ではレタスやエゴマの葉に刺身を置いてコチジャンをつけて葉っぱでくるむ食べ方も一般的のようで、刺身をとるとレタスやエゴマの葉を盛った皿も出てきた(計9万₩)。

#### ◆8月31日 聖人峰ハイキング 約7時間

朝7時、蓬萊の滝まで行くバス(@1,600₩)に乗る。S姉は「滝までの道の様子が変わっても滝は同じだ。」という。5月に買い求めた韓国版二百名山掲載の地図に赤線が入っている、こちらから聖人峰の尾根へ上がる道を登る計画だから、それらしい道を探しながらバスで上がった道を歩いて戻る。どう見てもそんな道は見つからなかった。

仕方なく芋洞港からタクシー(1万₩)でKBS(韓国放送公社)アンテナの登山口まで上がって、9時過ぎに歩き出す。見れば、取付きの畑にツルニンジンが栽培されていた。ネットで調べたら、チョウセンニンジンと同じ効用があり、3年かけて大きくする。本物にある特有の匂いがなく生食でも食べられているということだった。

緩やかな尾根道に行くのは私たちだけ、山頂まで4.1kmで歩きやすい。二百名山の地図では尾根に赤線が入っているが、歩いている道はほとんど尾根線の下を巻いている。標高530m辺りでやっと直登する道と出会う。(10:23)ここで休んでいた地元の登山者夫妻が、わざわざ湯を沸かしてコーヒーをご馳走してくれた。おまけに、お手製のキンパブ(海苔巻)を3本も手渡される。昼はパンしか持って

いなかったのうれしかった。

ひとしきり急な木段登りを13分がんばるとあずまやが出てくるが、休むには早すぎる。道は巻き登りとなり、なんとササに埋もれてオオミスミノの三角形の葉が結構見られた。やっと尾根にのる。(11:19)地図上の尾根通し道には×印の通行禁止標示があった。

ここから山頂までは1.1kmだ。カエデの交じるブナ林の尾根道をたどり、ナナカマドに囲まれた聖人峰に到着(11:55)、生憎、霧におおわれ展望はない。年平均300日以上も霧に包まれている山頂というのだからしかたないか。(続く)



聖人峰山頂。頂上の祭壇のような岩は将軍の足跡といわれており、この足跡は左足のため、本土のどこかに右足の足跡があると伝えられている。